

新宿区立中村彝アトリエ記念館 開館記念

中村

NAKAMURA
Tsune

彝

つね

展

下落合の画室
アトリエ

〈小女〉1914年 株式会社中村屋蔵

平成 25 年

3月17日(日) ~ 5月12日(日) 9時30分~17時30分

第2・4月曜日は休館日 【夜間開館】会期中毎週金曜日は20時まで（入館は19時30分まで）

新宿区立新宿歴史博物館 企画展示室

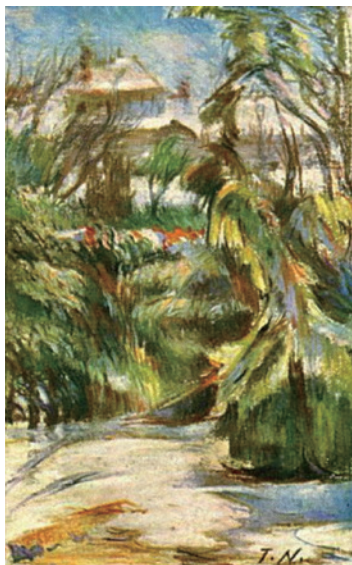


観覧料 一般 300円（常設展とのセット券は500円）
団体割引 20名以上で1名150円、中学生以下無料

【主催】公益財団法人新宿未来創造財団 【共催】新宿区、新宿区教育委員会
【協力】株式会社中村屋、日本通運株式会社、日本興亜損害保険株式会社
【問合せ】新宿区立新宿歴史博物館 03-3359-2131



《落合のアトリエ》1916年 横須賀美術館蔵



《雪の朝》1916年 個人蔵



《田中館博士の肖像》1916年 東京国立近代美術館蔵



《カルピスの包み紙のある静物》1923年 茨城県近代美術館蔵

〈新宿区立新宿歴史博物館 特別展〉

中村 彝 展

アトリエ
下落合の画室
NAKAMURA Tsune

明治末期から大正時代にかけて活躍した洋画家、中村彝。彼は、新宿中村屋などの支援を受け、後に豊多摩郡落合村大字下落合（現在の新宿区下落合3-5-7）にアトリエを構え、数々の作品を生み出した新宿にゆかりのある画家です。

平成25年3月17日、下落合に残る彼のアトリエを、建築当初の姿に復元整備

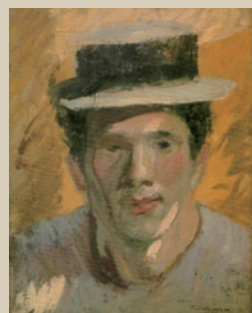
し、新宿区立中村彝アトリエ記念館として開館します。これを記念して新宿歴史博物館では特別展「中村彝展—下落合の画室—」を開催いたします。

17歳で肺を患い、37歳という若さで亡くなるまで、彼の制作活動は常に病との闘いでもありました。しかしながら、その中でも彼の芸術にかけた情熱や、残した作品は、近代以降の洋画界に大きな影響を与えています。本展ではアトリエ周辺を描いた風景画7点の他、代表作など計30点をご紹介します。また、当時の写真や書簡などの関連資料もあわせて展示し、人間としての中村彝にも迫ります。



なかむら つね
中村 彝

明治20年～大正13年（1887～1924）



《麦藁帽子の自画像》
1911年 株式会社中村屋蔵

茨城県水戸市出身。幼くして父、続いて母を亡くし、11歳のとき陸軍軍人の長兄を頼って上京。半田原町など、現在の新宿区内に住み、愛日尋常高等小学校（現在の新宿区立愛日小学校）・早稲田中学校（現在の早稲田高等学校）で学ぶ。軍人を目指すも肺結核のため断念し、画家を志す。明治42年（1909）文展に初入選。同44年には「女」で三等賞を受賞、新宿中村屋の主人相馬愛蔵・黒光夫妻の好意で中村屋裏のアトリエに移る。しかし、絵のモデルとなった相馬家の長女俊子との恋愛を反対されたことから中村屋を離れ、大正5年（1916）下落合にアトリエを新築。ここで亡くなるまで画業を続け、代表作を生み出した。大正13年（1924）12月24日肺結核により、37歳で逝去。

関連イベント

ギャラリートーク ●日 時：毎週土曜日 午後1時～（約40分）

美術史講座 ●日 時：4月13日・20日・27日・5月4日・11日の各土曜日 午後2時～4時

●定 員：60名（多数抽選） ●参加料：2000円（全5回）

●申込み：往復はがきで申込み（3月26日（火）必着）

※講師等詳細は2月20日以降博物館ホームページをご覧ください。

【交通のご案内】

- 東京メトロ丸の内線「四谷三丁目駅」徒歩8分
- 都営地下鉄新宿線「曙橋駅」徒歩8分
- JR・東京メトロ丸の内線・南北線「四ツ谷駅」徒歩10分



〒160-0008 東京都新宿区三栄町22番地 ☎(03)3359-2131
http://www.regasu-shinjuku.or.jp/rekihaku/

